

ハッピー 通信



本部 〒890-0032 鹿児島市西陵1丁目8-7 TEL 099-282-7408 FAX 099-296-1733 (事務局 TEL 099-283-6120)



法人みんなの願いを込めた笹飾り

一日も早い

コロナ終息を願って…

「〇〇市で〇人、〇〇施設でクラスターが発生。」聞きなれた毎日のニュース。慣れた・理解したつもりでいるけど、閉塞感と疲労感がしらずと募り、けれども緊張感を切らしてはいけないと自分に言い聞かせる日々。

「マスクは持った？」

「おしゃべりをせずに食べるんだよ」………なんのために………？

咳やくしゃみが出るときはマスクをつけると教えてきたはず……ご飯は楽しく食べることを大切にしてきたはず……

………コロナだから仕方ない………？
感染拡大防止対策に世の中が右往左往する日々の中で、ニューノーマルを強いられるプレッシャーの中で(そもそもノーマルってなに？)と思っているのに、制限するのは簡単だけど、体験や関わりから時間をかけて学んでいるわが子にとってはそっちの方が非常事態。

変わらない日常があること。その貴重さが際立つ夏休み。

スクラムでは毎日のバラエティーある、プログラムがこどもを中心に組み立てられている。

なぜか

こども達の成長の為に変わらない日常が必要だと知っている人がいるから

こども達は毎日の積み重ねで成長することを知っている人がいるから

こども達の変わらない時間と空間を守ってくれるスタッフがいるから

どの一つが欠けても実現不可能であることを思えば、これ以上ありがたいことはない。

こどもの日々を守るためにどれほどの苦勞と労力が必要かと想像する。

こども達がそだつための場所と時間と人を守っておられるスタッフの方々に感謝してもしきれない。

スタッフの方々のおかげで、こども達は変化に対応し、ルールを守りながら、それぞれの夏を楽しんで、チャレンジして、リラックスして、友達と過ごし、またひとつ成長したように思います。

夏の終わりに感謝を込めて

放課後等デイサービス事業所スクラム 保護者 今村智佳子



楽しい!気持ちいい!を伝えたくて

昨年度も取り組んだ『寒天遊び』。クシュクシュ、つるつるの感触に苦手反応を示す子もいて、今回は今年度の年長グループみんなの反応はどうかなあ、楽しんでもくれるといいなあと願って取り組みました。

導入として選んだのは『なにをたべてきたの?』の絵本。しろぶたさんがりんご、レモン、メロン、ブドウを食べてお腹に果物の色がついて・・・というお話です。そうしておもむろにみんなの前に色つき寒天を出す「赤だ」「むらさき色はないねえ」と子ども達は絵本の中の色がしっかりと残っているようです。



そして色つき寒天が入っている容器にまずは大人が手をいれてクシュクシュとやって見せます。待ちきれないかのように手を伸ばす子、スプーンを使ってつついている子、次第に容器の寒天をコップへ移す子も、それぞれの受け止め方がありましたが大人や友達の楽しげな様子を見ながらいつの間にか同じように遊びだす姿がありました。ジュースやプリンに見立てて、「めしあがれ～」とやりもらい遊びからごっこ遊びへと展開。丸めて棒にさすと、たこ焼き??



のイメージも浮かんだ子も。(口に含んでも安心な材料で作ってはありますが食べられないのが残念!)

何してるんだろう!と大人に抱っこされ眺める段階から 面白そう、あれなんだか気持ちいい! 楽しいな と変化する子どもの姿をまた見る事ができた寒天素材遊びでした。(文責: 奥田)

子ども達の大好きな絵本の紹介

★年少々・年少児さん

「だるまさんシリーズ」

(かがくいひろし: 作絵 ブロンズ新社)



←大型絵本にもなっています

不動の人気です! 読み手の声に合わせて体を揺らしたり、だるまさんと同じ動きを楽しみます。子ども達もユーモラスな絵と言葉に魅了されています。

★年中・年長児さん

「だめよ、デイビット!」

(作・絵: デイビットジャノン 訳: 小川仁央 評論社)



お母さんがデイビットを怒っている姿は、思い当たるふしがあるのか、じーと見入っていたり、ふざけてる所は笑ったりしながら見えています。

最後にお母さんが「デイビットおいで」といって抱きしめる所では「なんで?」と言う声がよく聞かれます。怒ってたのにどうして抱きしめるのかが不思議な様です。



～安心できる場所があって頑張れる!～

暑い! 毎年このぐらいの時期になると感じるのですが、今年は特に暑く感じたのは私だけでしょうか。な～にもしなくても汗がタラタラ落ちてくる。立っただけでも体力が奪われていく・・・まだまだ若いと思い込んでいても身体は正直で年々、体力がなくなっているなと思い知らされます。



さて、子ども達も4月からの新しい環境に慣れてどんぐりが安心できる場所になってきていることを登園してくる子ども達の表情から感じます。なぜ、安心できる場所になってきているのかな、楽しいから、らくちんだから、そうなんです! 楽しいからどんぐりは大好きな場所、安心して自分を発揮できる場所になっているのです。

子どもは「できる自分」になりたくて頑張るのでしょう。3歳後半から4歳5歳になると少しずつ、あの子はあんな事ができてカッコイイな～ボクもそうになりたいな～とあこがれの気持ちが芽生えてきます。(だから戦いごっこ、ヒーローが大好きです)

大きな集団では子どものやりたい、できるようになりたいという気持ちと裏腹に頑張っても上手くできないということも少しわかってきてもうしない、嫌だ! という表現になりがちな子どもたちも出てきます。また大人の甘えているのではないかと、頑張らせる事が大切ではないかという想いも、もしかしたら敏感に感じ取っているのではないかとともに感じます。



私たちは子どもが見せる姿の中に、子どもの本当の願いは何だろうかという捉え方をします。そうして今現在子どものもっている出来る事、楽しい事をいっぱい積み重ねられるような活動(遊び)を工夫しています。出来ない事の積み重ねではなく“できた!! たのしい!!”という積み重ねです。そこから生まれる自分への自信を持って新しいことにチャレンジしていく

力が育まれていくと考えているからです。

安心して自分を受け止めてもらえるところ、頑張りたい気持ちを分かってもらいながら、だいじょうぶ だいじょうぶと一緒にいてくれるおとなの存在がとても大切だと思います。スタッフ間でもじっくりとその子のリズムを大切に! を合言葉にしています。

私たち子育てサポートどんぐりのスタッフは子ども達の不安な姿にどう向き合っているかという視点で「安心」という事を考えてみました。私も1人ひとりの子どもの思いに応えられるかなと悩むスタッフの一人です。周りのスタッフと考え合いながら大人も一緒に成長していけたらいいなと思います。(文責: 宮島)





気づき・共感・学習・変化・定着のサイクルを大切にしよう！

一人のお母さんの想いを受けて

自分にとっては一大事！だけど他の人にとっては…と誰かに打ち明ける前に自分の思いにフタをしていたりしませんか！こっそりとでもいい愚痴でもいいから誰かに話すと気が楽になったりします。言葉の使い方に苦手意識や何気ない言葉に深く傷ついたりすることを恐れて会話することを躊躇する傾向もありますね。私は何気ない会話の中にこそ新しい気づきが生まれるキッカケがあると思います。人と人が信頼関係を築くには何を思い何に憂えているかを共感共有しあえて創られてくるのではないかと思います。異なる考え方を受け入れられるチャンスととらえる！



スクラムでは1学期前半に笑君のお母さんからこんなつぶやきを聞くことができました。「先生どうしよう！」と慌てた顔で笑君のお母さんがやってこられ1ヶ月の間に数キロも体重が増えていた！スクラムのおやつを少なくしてほしい！というものでした。また、代謝異常のある子どもたちもあり思春期の女子たちは体重管理が難しく、スタッフ間でもおやつが話題になっていた時でしたので、すぐにおやつの見直しが始まりました。見た目・量・味と子どもたちが満足するおやつを作ろう、市販のものは極力減らし手作りしてみよう！となりました。スタッフの中には栄養士の資格を持っている人もおり、カロリー少なめのおから入りクッキーやお好み焼きおからバージョン等も、さすがにカボチャの煮物の時は「ええ～これはおやつじゃないよ！」とおやつのご概念には無いという子どもの声もありましたが。トレーや器にもこだわって今に至っています。

6月の保護者会では笑君のお母さんの声を受けてみんなで「生活を考える」というテーマで話合いました。それぞれの生活スタイルがある中でやはりみなさん工夫をされており、食に関しては笑君のお母さんの太らせないような工夫を聞き、改めて「子どもが育つ生活環境を考えるよい機会にもなりました」という声も聞かれました。



更には「身体を動かすこと」が億劫になっているという話を受けて一日の終わりの帰りの会で体を動かしてリラックスする、気持ちをリセットするということを目的に体操に取り組んでみました。そうして体育の教員資格もある保護者に相談すると快く週1回帰りの会に合わせて子どもたちに体の部位の使い方を楽しく指導していた

だいています。その指導を下にスタッフがゆったりとした体操の時間を毎日続けることができています。



子どもたちの時間やなかみを豊かに創るための親御さんをはじめとする誰かの気づきを共感共有していけるなかまの存在の大切を改めて知った夏でした。（文責：前迫）

コロナ禍でのスクラム ～これまでとこれから～

ハッピー通信読者のみなさま、こんにちは。スクラム施設長の酒匂です。

さて、ウィズ(with)コロナという言葉を目にしました。ワクチンが開発されていないウイルスはいったん感染が収まっても、第2波、第3波と新たな感染の波が襲ってくるのだそうです。また、現在、森林などの野生動物の生活環境が破壊され、野生動物と人間との距離が縮まり、新たなウイルスが出現する確率が高くなっているとのこと。さらに、シベリアや極地の永久凍土が溶け始め、眠っていた古代のウイルスが出現してくるという話もあります。

つまり、今回の新型コロナウイルスによるパンデミック(広範囲に及ぶ流行病)は今回だけに限らない、今後も未知のウイルスによるパンデミック化の可能性は高い。よって、人類にはコロナと共存していくという覚悟が求められているということ。故に「ウィズコロナ」ということだそうです。

法人の会議はすべて、オンラインツールを使ったものとなっており、私も少しずつ慣れてはきましたが、画面越しの会話や意見交換など相手の表情や場の雰囲気などまだまだツールとしての改善の余地があるなと感じています。人との接触を減らすことや人の移動が制限される世の中では、今後オンラインツールの高度化やIoT(Internet of Thing:「モノ」自体をインターネットに繋げより便利に活用するという試み)がより開拓されていくのではないのでしょうか？

ウィズコロナという未曾有の難局を皆さんと一緒に乗り切っていきましょう。ハッピーもスクラムも全力で頑張りますので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い致します。

(文責：酒匂)

育ち合う 放課後

友だちを通して感じる自分～たけ君の自分づくり～

たけ君は“カッコいい”男を目指し、筋トレに励む15歳☆憧れのスターは“嵐”、ダンスやお笑いも大好きな今ドキ男子です。そんなたけ君は思春期まただ中。指示ではなく自分で考え、自分で決めて行動したい様子が放課後はちょっと控えめに、ホワイトボードに向かい友だちやスタッフのランキングを熱心に書き静かに過ごす姿や小部屋でゆったり過ごす事も多い彼。自分のペースで過ごしたいでもダンスなど友だちの中でリードする空気になる時もあり、そんな時の彼は嬉しそうで生き生きした様子でもありました。また、小さい子たちを上手に受け入れ遊ぶ姿や敏感さのある友だちが安心して一緒に過ごせる穏やかな雰囲気を持ち味のたけ君です。そんな様子から、たけ君自身の過ごし方も大事にしながら、少し意図的に得意な事や好きな事でスクラムの“カッコいい”お兄さんとしての手ごたえを感じる放課後と一緒に創っていけないかと考え、得意な球技やダンスを放課後活動の中に盛り込んだり、親しみを抱いている憧れのスタッフと友だちをリードする役を担ったりしていきました。ある日の野球あそびではヒットを期待する友だちの声援を一身に受ける姿、ある日は楽しそうに踊るたけ君に誘われダンスの輪が広がるそんな放課後がありました。低学年のちびっ子が“あそんで～♪”とそばにいく姿も☆こんな時間を重ねながら、たけ君がどんな自分を選び創っていくのかを見守っている今です。



友だちと共にある放課後は、友だちを通して自分を感じる時間でもあると思います。自分のよさ、時には悔しさや、ふがいなさも含めて揺れながらそれぞれが自分の願いに向かい、自分を創っていく時間であってほしいと思います。見守る大人の私たちができることは…本人のねがいを超えないように用心、用心。本人のねがいに少しでもつながるような環境を工夫し、さりげなく置いておくことができればいいなと思っています。(文責：児玉)



ハッピー班 「継続は力なり」

私が開で働き始めて、約半年が経ちました。全く未経験の成人分野で、スタッフはもちろん、なかま達も年上の方が多く、緊張する毎日でした。日々の作業でも、なかまから時には教えてもらい、時にはなかまが取り組んでいるのを盗み見て真似る等、なかま達にとっての「仕事とは？」についてまだまだ学ぶことは多くあります。

中でも、ハッピー班が長い間続けてきた、公園清掃・刺し子の作業。

公園清掃では、西陵区域の2か所の公園を掃除します。公園の中をある程度の広さで分担し、それぞれ黙々と取り組んでいます。自分の場所が早く終わったなかまは、周りを見渡して終わっていないなかまの手伝いをしようとする姿が多く見られます。スタッフから何も声を掛けられなくても、自ら塵取りを持って行き、なかまと一緒に取り組んでいます。それぞれの取り組み方やペースが違う中で、なかまと「清掃を終わらせる」という一つの目的に向かって、なかま達が主体的に協力し合おうとするとても素晴らしい時間、そして、これまで長い間取り組んできたからこそ、今のなかま達の姿があると思います。

また、最近では作業服セットを購入し、それを着て取り組む事で以前にも増して「仕事」として気を引き締めて取り組んでいます。



刺し子では、初めはまず糸を針に通すこと、点に合わせて縫っていくことから始めたと言いました。本当にそこからスタートしてたの？というくらい、今では丁寧に、そして上手に縫い進めています。最近では、みんな縫うペースも早くなり、私たちスタッフの準備が間に合わないほどです。これも、長い間取り組んできたことで身についたスキルだと思います。コロナ禍の為、開マーケットやバザーなどでその成果を発揮する機会が減ってしまいましたが、先日、某大型販売店でのイベントに刺し子コースターを出品させていただき、大好評でした。

私たちもそうですが、何か物事を行う時、すぐにできることは少ないと思います。それでも、長い時間をかけてゆっくり丁寧に取り組んでいく事で、「力」として身についていくのだなとハッピー班のなかま達から気づかせて頂きました。もちろん、これまで携わってきたスタッフの尽力もありますが、何よりなかま達が一生懸命取り組んできたからこそ身についた「力」そして、これこそが「継続は力なり」だと思いました。

先の長い成人期、これまで培ってきた力を元に、今後もなかま同士の繋がりも大切にしていきたいです。時には新しい事も挑戦し、「継続は力なり」という言葉の通り、長い時間を掛けて取り組み、なかま達の新しい「力」として、そして生活の中で生きる「力」として、なかま達のこれからの人生が豊かで張りのある、そんな人生になるようになかま達とスタッフと一緒に頑張っていきたいと思います。(文責：池田)

～音楽クラブの様子から～

毎月1回、西陵南公民館で mu×mu さんによる音楽クラブがあります。まずは、その月に合った歌を歌ったり聞いたりして、思い思いに季節を感じているのですが、7月には「七夕さま」と小豆を使った楽器で波の音を感じながら「うみ」を歌いました。次に輪になって座り音楽に合わせながら一人ずつ順番にタンブリンを叩いていきます。みんなの手拍子によってタンブリンを叩いたあと、笑顔で次のなにかまにタンブリンを渡していきます。また、音に合わせて歩いたり体を動かしたりすることもなにかま達は大好きです。特にスライドホイッスルに合わせて体をくねらせてしゃがんだり伸びたりする動きや、トーンタングに合わせて体を回すことが楽しく、笑い声が聞こえてきます。



体を動かした後は歌に合わせてぎやかに楽器を鳴らしたり、「きらきら星」に合わせてツリーチャイムを鳴らしたりと動と静の音楽を楽しみます。ツリーチャイムは順番にひとりずつ鳴らすので、自分が鳴らすだけでなく、ほかのなにかまが鳴らす音を「きれいな音だね～」とうっとり聞くことができる心地よい時間です。

心地よいといえば、先生方のキーボードとバイオリンによる演奏を聴く時間も、曲に合わせて体を横に揺らしたり、曲に合わせて歌ったりと思い思いに演奏を楽しむ素敵な時間です。時にはなにかまのリクエストの曲が演奏され、リクエストに応えてもらったなにかまは嬉しそうです。最後「タヤケ小ヤケ」を歌い音楽クラブはおしまいです。帰りの車内では、「この歌楽しかったね」と話す声が聞こえてきて、和やかないい雰囲気です。毎回 mu×mu さんの先生方が音楽の楽しさを感じられるような工夫を凝らしたプログラムを作ってくださっていることでなにかま達が音楽を楽しみ、和やかな音楽クラブになっているのだと感謝しています。これからもなにかま達がいっしょに楽器を鳴らしたり、音に合わせて身体を動かしたりすることで音楽を楽しみ、音楽やその空間を心地よく感じられる活動は好評です。

(文責：東)



製品紹介

<食品加工班自慢のクッキー>

開の食品加工班では、パンやスイーツを作っています。その中でも、「プレーン味・ココア味・ゴマ味・オレンジ味」の4種類のクッキーが人気です。クッキーを作るときは、前日になにかまがクッキーを作るのに必要な材料を計量してから作業に取り掛かります。クッキーを作るとき、バターを溶かす作業があり夏場はバターがすぐ溶けるのですが、冬場はなかなかバターが溶けません。しかし、なにかま達は最初から最後まで一生懸命作業に取り組む姿があります。夏・冬には物販の注文も入ります。注文の個数が決まるとみんなで「頑張ろう!!」と気合を入れて協力し合っています。クッキーを焼き→ラベル貼り→袋詰めと全部食品加工班のなにかま達が自信を持って作業に取り組む姿があり、注文がきていた個数が揃うと「終わったー」という達成感と「頑張ったね」と自信がなにかま達にあり、その瞬間スタッフもとても嬉しく思います。さらに、「サポートセンター開」という看板を背負って様々な場所でも販売をしています。今回は、「アンリーシュ・マルシェ」で山形屋にも出店させてもらい、いろいろな方に「クッキーおいしいね」と言ってもらいました。これからも、なにかま達が作るおいしい自慢の開クッキーを作りたいと思います。(文責：重信)





ホームの畑

メールアドレス: g.homei@npo-happy.org

利用者、保護者、職員一緒に畑作りをして、夏野菜を植えてから数ヶ月経ちました。冬野菜の収穫を終え、夏野菜を植える前に、なかま達と、「どんな野菜を植えようか」と話し合いをしました。何が好きか、何が食べたいか、何が育てやすいか、なかまと職員で一緒になり考えました。「トマト・ナス・ピーマン・



オクラ・きゅうり・ニガウリ・スイカ」などの声が上がりました。野菜の成長がより見えやすい様に畑以外にも、なかま達の目が届きやすい駐車場にもトマトとキュウリをプランターで育てることに。朝の畑の水かけは毎日の日課となり、野菜の成長



を見守ってきました。太陽の光をたっぷり浴びた野菜たちは順調に育っていき、毎日のように収穫を行いました。食事にも取り入れて、おいしく頂いたり、時にはトマトやキュウリを収穫してすぐ食べたりし、



自分たちで収穫した野菜を食べました。自分たちで収穫した野菜は格別おいしく、野菜がちょっと苦手な方もおいしそうに口に運ばれていました。一方で一番楽しみにしていたスイカはなかなか実が付かず…。毎日毎日様子を見ていたある日、畑の様子を見にいくと小さいスイカが実を付けていました。一番気にかけていたスイカの成長になかま達も大喜び。なんと4玉の大きなスイカを収穫することができました。「次の夏もスイカは作りたい」と早速



声が上がっていました。自分たちが、毎日のように水を掛け、育てた野菜たち！！元気に大きく育ち、なかま、職員ともとても手応えを感じました。

秋には畑はもう一区画作り、拡大する予定です。次に植える野菜は何がよいかなと今からみんなで楽しみに考えている所です。冬野菜作りも楽しみですね。(文責：長野)



～実ったスイカは～

法人内の各事業所へお届け！ステキな夏の贈り物となりました☆スクラムではスイカわりを楽しみ、子ども達のお腹に美味しくおさまりました♪



親御さんからの嬉しい声は励みに！

保護者の長年の願いであった暮らしの場のグループホームハッピーが開所し、4年の歳月が過ぎました。開所した当初は、自立した生活に向け、巣立っていく息子や娘に「またいつでも帰っておいでね。グループホームでも頑張るんだよ」と寂しそうに背中を押していた保護者の方々。今では土曜日も、日曜日も祝日もホームで過ごす方も増えてきて、『心許せる仲間と自分らしい生活』を過ごしています。利用者の方々とはいうと、入所したころに比べ、「自分のことは自分でしたい！」という気持ちが生まれており、洗濯物を干し、部屋の片づけをし、身支度もされます。中には季節の移り変わりに合わせ、ご自身で衣替えをされる方もいらっしゃいます。保護者の方に、「季節に合わせ、ご自身で衣替えをされていましたよ。」とお話すると「そんなことができるようになるなんて！我が家ではそんなことはしなかったよ」とのお返事が。「大好きな仲間や、職員がいて、安心して落ち着いて生活することのできる環境のグループホームだからこそ、できるようになったのかもね。これも一つの自立ですよ。」と嬉しいお声かけを頂きました。

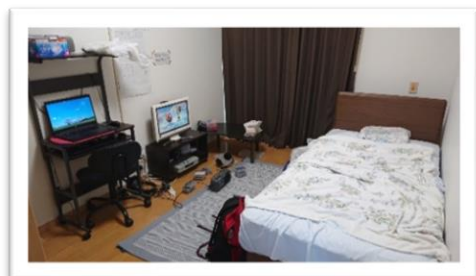
グループホームハッピーのゆったりとした心地良い雰囲気の中で「急ぐことなく、1つ1つ、一歩一歩」とともに歩んでいけるようそれぞれの心に寄り添いながら暖かい支援を目指していきたいものです。（文責：西田）

衣・食・住

初公開！？ プライベート空間☆

現在グループホームで生活されている方は6名で、リビングは、仲間が集い食事をしたり、テレビを観ながらくつろいだりできる空間、浴室は入浴の好きな方にとってリラックス空間。そして居室は…、まさにプライベート空間☆仲間たちそれぞれの趣味嗜好が詰まった空間です。

EXILE が大好きなNさん。テレビの下には、コツコツ貯金をして購入した EXILE の DVD コレクションがずらり。壁面にはタカヒロのポスターが飾ってあり、好き度合いが伺えます♪（実は AKB にも推しがいるようですが♡）テレビを観たり、音楽を聴いたりしながら、ゆったりとした時間を過ごされているようです。



テレビ、パソコン、ラジカセに囲まれながらの時間を楽しまれているYさん。この3つが同時に稼働する中でも、一つひとつを楽しむ姿やそれをBGMにするかのようにくつろがれている姿があり、色々な楽しみ方をされているようです。ちなみに、ラジカセのカセットは見出しが無いにも関わらず、内容を全て把握されている様子、凄すぎです！

居室は、仲間たちにとってのプライベート空間であり、仲間たちが安らげる空間であって欲しいと思います。ただ、安らげる空間というものは人それぞれ。趣味嗜好、日頃の生活スタイルなどの様々な視点からそれぞれの安らげる空間を創れると良いのだらうと思います。

（文責：宮元）



～私の仕事～

グループホームハッピースタッフ 戸木田
グループホームでの生活支援員として入職し、あ
っという間の1年 10 か月が立ちました。障害者施
設での仕事は経験がなく戸惑う事ばかりでした。

そこで、中々先輩職員の皆さんのようには行かない
為、先輩職員の皆さんのアドバイスを頂いて実践
したり、先輩職員の皆さんの対応を見てまねて実践
したりして、日々の支援の在り方を学ばせて頂きま
した。

利用者さんの障害特性をしっかりと理解し考える
事、根拠に基づいた支援計画でのサービス、更に構
造化を中心とした支援をチームで提供する3つの基
本を見直す事にしました。

その中で、支援の質の向上の為に必要になってく
るのが「気づき」で、いくら知識や技術を持ってい
ても利用者さんの思いに気づこうとしなければ問題
の本質が見えてこないとの事でした。

私は、入職してから利用者さんの障害特性を理解
できていない状態で支援していたのではないかと深
く反省致しました。

そこで、日々のコミュニケーションの中から利用
者さんの思いに気づくことから始める事やチームで
支援計画書に基づいて丁寧に取り組みを行っていく
大切さを改めて思い直し、支援の質の向上に繋げる
事が私の仕事と思っており、他の仕事では得られな
いやりがいや喜びを感じながら、楽しくグループホ
ーム内での仕事をしております。

～どんぐりに通って～

どんぐり保護者 H. A
1歳半からお世話になっていて、今年はずいぶん年
長さん！ちなみに兄妹でお世話になっていまし
た。段々と成長が感じられるどんぐり日記、おい
しい給食のお代わりしましたに嬉しかったり体重
が心配だったりします。前迫先生、久保先生、大
迫先生、毎回の講話を聴き、待つって忘れてるな
って反省します。

子供の思っている言いたいことを、自分でする気
持ちを、成長を待つなどなど、大人の事情優先です
まんって思っては優しくなれます。最初で最後のど
んぐりお泊り会、自宅の静かさにびっくりと寂しさ
を、さらに帰ってからの「楽しかった～！」の笑顔
に頼もしさを感じました。夜、一緒に寝るとき「本
当はね、少し寂しかった…」に、一緒～♪ってうれ
しくなりました。どんぐりの先生たち皆さんは、そ
んな私（親）へ優しい気づきを教えてください。万
全の対策を整えていただき活動を楽しめます。そん
などんぐりの皆さんに感謝です。いつか私もそのよ
うな存在になりたいです。

ブログ等で各事業所の最新情報を

ぜひチェックしてみてください♪

ホームページアドレス

<http://npo-happy.org/>



特定非営利活動法人ハッピー 鹿児島

検 索

☆ 賛助会員を募集しています ☆

NPO 法人ハッピーでは地域の中でも誰もが安心してひとりの人間として生活していけるように地域生活
サポートに関する活動を行い、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進を図ります。私たちの取り組みにご
理解くださり、賛同して下さる方を広く募集しています。皆様のご理解とご支援の下、地域に根ざした福祉
の向上に努めます。どうぞ宜しくお願い致します。詳しくは本部までお問い合わせください。

賛助会員 個人 一口 2000 円

団体 一口 10000 円 （何口でも可）

【入会方法】振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別(個人/団体)をご記入の上、下記口座にお振込
みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたし
ます。

＜口座名義＞ トクテイヒエイリカツドウハウジンハッピー

ダイヒョウシャ ヤマサキヒロノブ

＜口座番号＞ 鹿児島銀行 西陵支店

普通預金 口座番号 545722

お問い合わせ先 NPO 法人ハッピー 099-283-6120（担当：有村）

